

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 文化財課

会議の名称	平成 29 年度 第 2 回文化財審議委員会		
開催日時	平成 30 年 3 月 6 日（火） 13 時 30 分から 14 時 20 分		
開催場所	市役所 6 階 602 会議室		
出席者	文化財審議委員 小池春夫 両角英晴 小平正八 浦野岳孝 会田進 下倉孝繁 西之園徹 教育委員会 山田利幸教育長 平出信次生涯学習部長 守矢昌文 文化財課長 小林健治文化財係長 小林深志主査		
欠席者			
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
小林健治係長	1 開 会		
山田利幸教育長	2 教育長あいさつ		
小池春夫教育長	3 委員長あいさつ		
小林健治係長 小林深志主査	4 報告事項 (1)平成 29 年度 文化財事業報告 資料 4～25P の説明		
会田進委員	(2)「信州の特色ある縄文土器」長野県宝指定諮問について 資料 1～3P の説明 長野県教育委員会は「信州の特色ある縄文土器」として 158 点を県宝指定するよう諮問の方針を決めた。日本列島改造論以降に加速する開発に伴い、発掘するだけで精一杯で、収蔵庫に眠る土器を何とかしたいという思いが、指定の第一目的である。また、世界史でも注目され、信州で栄えた縄文文化の見直しを図りたいというのが第二の目的である。158 点のうち、47 点が茅野市出土のもので、市町村単位で最も多い。これに、塩尻市 25 点、原村 18 点と続く。茅野市が最も数が多いのは、尖石遺跡をはじめとする数多くの遺跡の発掘調査の成果といえる。今回、顔面や動物装飾のある土器を「信州の特色ある土器」として選定の主眼に置いた。		
下倉孝繁委員 会田進委員	土偶と土器の違いは何か？ 土偶は人の型を基本に造られた土製品、土器は煮炊用のナベが用途の大部分を占める。その土器に顔面や動物を過剰に装飾したことに、信州の縄文土器の特色がある。顔面把手付土器は全国で 600 程あるが、その半数の 300 程が信州から出土している。		
西之園徹委員	5 審議事項 (1)下菅沢祖霊桜（エドヒガンザクラ）について		

	<p>資料 26～29P の説明</p> <p>下菅沢のシダレザクラ（エドヒガンザクラの枝垂れ性品種）は、諏訪地方のシダレザクラの中で、第2の規模を誇る。長野県指定天然記念物の桜と比較しても、有数の規模である。また、八ヶ岳を背景にしたその姿は大変美しく、茅野市の指定文化財に相応しいと考える。茅野市天然記念物の「古御堂の枝垂桜」と比較しても遜色ない。茅野市天然記念物指定に向けご審議頂きたい。</p>
<p>小平正八委員 西之園徹委員 浦野岳孝委員 西之園徹委員 会田進委員</p>	<p>樹齢はどのくらいか。 樹齢は伝承から推測するしかない。 桜の寿命はどの程度か。 推定樹齢千年という桜もあるので、その位の可能性があるかもしれない。 下菅沢祖霊桜の上部が薄くなっているように見えるが、樹勢に衰えはないか。</p>
<p>西之園徹委員 会田進委員</p>	<p>上部は落ちたり生えたりする部分で、このくらいなら、問題はないと思う。 樹齢に関わらず、価値のあるものならば、枯死する前に指定した方がいいと考える。</p>
<p>小林健治係長</p>	<p>下菅沢祖霊桜の現地視察を、来年度の第1回文化財審議委員会に実施したい。桜の開花が予想される4月20日に、今回と同時刻に計画したい。</p>
<p>両角英晴副委員長</p>	<p>10 閉 会</p>